

乍恐御歎奉申上口上之覚

一 私居屋敷之義代々町並

諸役御免ニ被仰付難有仕合

奉存候、然ル所追々勝手向

難渋ニ相成候ニ付御願申上

御聞届之上、表通り貸家ニ

仕候所、当十七已来灘町

目代伊右衛門より右貸家諸役

取立之義御願申上御評義

之上願通ニ被仰付候由被

仰渡甚以恐惑仕候、元来

諸役御免之義ハ先祖共勲功

も御座候ニ付数代結構被

仰付置候所、此度右様ニ

相成候而者先代旧功も空

敷相成候道理ニ而奉沈入候

間、乍恐何卒是迄之通り

御免許ニ被相成置候様

奉願候、尤近来不時入用

等間々有之候而町内一統

困窮之由伝承仕候義も

御座候間、已後不時入用

御座候砌ハ御定法通り

町内へ割符仕、其上聊共

引足不申候ハ、目代より貸家

者共へ相對談し致し候ハ、

相当之前差出し候様被致

度奉存候間、幾重ニも町並

諸役之義ハ御免被

仰付候様偏ニ宜奉願上候、已上

大谷藤兵衛

天保十年

亥十一月日

御奉行所当テ

十二月朔日

右之通手紙<sup>ニ</sup>相認後藤治部左衛門  
後藤彦三郎手前三軒より  
後藤定三郎を以差出し候事